発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番 ③3034番
編集兼発行人 山下 開
半年間1,000円 送料共

賃金展開に討議集まる

闘いの具体的計画を

中央委 新労を変えなければ……

三池労組は、七日大牟田労働会館で開いた中央委員会で、①三川鉱死亡災害（別項参照）、②炭労中闘委員会報告、③賃金展開――などの問題をめぐり討議したがなかでも③項の問題に論議が集まり、今後は具体的な闘いも計画し、何といっても新労の方向を変えさせるためにねばり強く闘う決意を固めた。

春闘で勝ち取った賃上げ分の展開については、組合はすでに別項の要求を会社側に出している。

会社側はこれまでに輪をかけ、不合理な展開を押しつけてくるだろうし、組合の、人間的な、封建的賃金支配の打破をめざす要求とは、真っ向から対立してくることは明らかで、これまで長く一方的に押しきられてきた。

だが時代の流れは、もはやそれを許さなくなってきた。したがって、論議が賃金展開の問題に集ったことは当然で、また討議も真剣だった。

それに、この問題をもっと重視し、具体的な計画で闘いを組むべきだ。同時に、新労組の方向を変えさせるねばり強い闘いも不可欠だ――など力強い意見も述べられたが、事実賃金展開をめぐる炭鉱労働者の闘いは、はるかに重みを加えてきた。

ストを中止

炭労、朝日闘争で

炭労は、北海道の朝日炭鉱の「閉山反対闘争」を支援するためかねて十日に全山ストライキ突入をきめていたが、その後の交渉で「関係者間での充分な協議が整うまで、八月十日予定の閉山を延期する」「具体的な解決は、北海道地方本部と話し合ってゆく」――との会社回答の結果、同ストライキを一時延期した。

その後炭労から伝えられてきた情報は、朝日炭鉱の会社側が、次のことを提案してきたことを明らかにしている。

(1)現在の朝日炭鉱を新鉱に置きかえる。

(2)したがって、従業員は原則として再雇用する。

(3)以上の考え方にもとずき、朝日炭鉱を処理する。

封建的な賃金支配はやめよ

賃金展開に組合要求

三池労組が、「昭和四十九年度新賃金の展開」について提出した要求内容は、次の通り。

要求内容

一、新賃金の配分要求

(1)賃金構成、支払形態、職種区分は従来通り。

(2)加算額千四百円（一方）の配分について

①財源の範囲、坑内員・坑外員一本化する。

②千四百円に、能率上昇分を加えた額を、全職種・全作業者に一律に加算せよ。

二、その他諸要求

(1)基準内賃金を、千四百円とは別に、一千円（たとえば南大夕張炭鉱などとの格差分）ひきあげ、月給制の方向を確立せよ。

(2)全鉱統一標準作業量を設定し採炭員、掘進員の最低補償賃金を八千四百円とせよ。

(3)合建（差別支配手段の一つ）は三ランクとせよ。

(4)工具および、材料運搬は中止せよ。やむを得ず入昇坑時運搬する場合、手当を支給せよ。

(5)工具代は、すべて会社負担とせよ。不合理な諸手当は、十倍にひきあげよ。

(6)公私傷病により、体に障害のある者については、労働時間を短縮し、特別手当を支給せよ。

(7)坑外の雨天作業は、原則として中止せよ。但し、やむを得ず行なった場合は、賃金の三〇%割増を行なうこと。

(8)精勤賞与は、現行方数を二方ひきあげ、最低限を五千円とせよ。

×

以上だが、要求の内容からうかがわれるものは、長くつづいてきた、三井の賃金体系を手段とする〝封建的支配〟の打破について、一歩前進したものとなっていることで、それだけ要求実現に対する闘いの重要性が示されている。

国料さん、落盤で惨死

ことし四人めの犠牲

三池労組、ストで抗議

三池でまた、落盤による死亡災害が発生。犠牲となった人は、三池新労組員の国料義治さん（四十二歳。払採炭工。大牟田市野添社宅十八棟）だった。三池労組はただちにチランで事実を伝え、謹しんで哀悼の意を表するとともに、全山時限ストライキをうって資本に抗議した。

災害は、三川鉱（前村正一鉱長）で、五日の午後二時四十五分ごろ起きた。

生産箇所は本層五十卸東材料運搬坑トルほどはいった坑底で、災害発生箇所は本層五十卸東材料運搬坑道六卸下段払。

もともと、同払のパンツアコンベヤーの当番だった国料さんは、その日の朝、同払に三十四人の同僚とともに繰りこまれ、本来ならば、その日午後一時五十分には作業を終了、昇坑するはずのところだった。

ところが、ほかの十人の同僚とともにひきつづき残業を命ぜられ作業を続行。

しかも、その作業が本来のそれでなく、剛れぬ鉄柱立てだった。同箇所はかねてから、高温が問題になっているところ。そこで、疲れ切った体でのこの作業だったから、何でとも起きない方がよっぽどうかしている。三運のカッペに、鉄柱が一本だけ立っていたのに、そこに鉄柱を立てていたところ、当然ながら不意に平衡が破れ、そのため幅一メートル、長さ二・四メートルの天盤が落下。国料さんは、その下敷きになってしまった。

災害発生後約二時間して救出されたものの、すでに国料さんはこときれていた。「全身埋没、前胸部左肋骨骨折、呼吸不全」という医師の診断書が、いかに悲惨な死だったかを物語っている。

災害原因は、明らかに手抜き作業や高温問題など、今もなお生産第一主義を押し通し、保安サボをつづける三井の態度から出ていることで、厳重にその責任を問わなければならない。

同職場の新労組員もたまりかねて、この日抗議に立ちあがったが、また、同職場を組織基盤とする三川指導部職場三分会は全員、翌日休みをとり社葬に参列、心から哀悼の意を表した。

ただ、それでもまた、三池新労組としての統一行動は、何ら見られなかった点は注目すべきだ。

なお、今年だけで坑底での犠牲者は、国料さんが四人め。

営まれた死没囚人

労働者の法要

十日、大牟田囚人墓地保存会（本吉敬治・福岡大学教授）は、西有明町の運心寺で〝第六回死没囚人労働者法要〟を営み、心から冥福を祈った。

明治六年に、はじめて維新政府の手で投入されて以来、昭和五年に廃止されるまで、前後五十七年間、三池炭鉱で続けられた囚人労働は多くの犠牲者を出している。従って法要のもつ意味は重大だ。

豆コント

辞任
テープで首をしめた
――ニクソン

減り出した海外旅行
海外派兵も魅力なしか……
――自衛隊募集係

ひと夏の経験
われながら成長したものだナ
――物価

国益のため
あなたも辞任すべきです
――ニクソン
田中首相どの

フォード大統領就任
日本のブルドーザーをお忘れなく!!
――田中首相

風立つ季節
腹立つ季節がほんとうだよ
――値上げ攻めの国民

ソ連から思わぬ訪問客

改めて見た、連帯の尊さ

五日のこと三池労組に思わぬ訪問客があり、そのため組合本部は何がなし急に明るくなった感さえただよった。

訪問者は、ソ連邦マルクス・レーニン主義研究所のロリオノフ次長に、アントニューク学術会員だった。

同日午後四時十分大牟田駅着の特急〝なは〟で来牟したロリオノフ次長らは、何はともあれ三池労組へ。

まちかまえていた組合役員や主婦会役員らと、さも旧知の間がらのような気安さで握手をかわし、小会議室でさっそく交流。

大きなレーニン像の額や、ソ連邦の炭鉱労働者たちが寄せ書きした赤旗、あるいはかねて同国から寄せられてきているとりどりの贈りものが飾られているのを、心から懐しそうにながめまわしていたが、そこにソ連邦の労働者と三池の労働者との間に、固く結ばれているゆるぎない連帯を見たに違いない。すっかり、満足そうな表情だった。

交流では、三池の家族ぐるみの闘い、かくべつ三池主婦会の運動がよほど魅力的だったらしく、その生い立ちから、組織機構・活動の現状などについて、くり返しくり返し質問していた。さすがの主婦会役員たちのこの日の表情が、ひとしお晴ればれとして見えたのはいうまでもない。

本部での交流を終えたあと、同次長らは三川鉱の内外の諸施設を見学、さらに新港社宅にまでも足を伸ばして、親しく組合員の家をたずねるなど、終始暖い態度がとりわけ印象に残った。

ロリオノフ次長らは、この日別れを惜しみつつ、次の訪問先に向かって大牟田を去って行ったが、同次長は次の期待を述べ、連帯を誓った。

「こんどとも、マルクス・レーニンの科学的社会主義を学び、運動を実践されることを心から期待します」

とまれ明るいひとときだった。

ソ連邦のマルクス・レーニン主義研究所から来組のお客さん。初めて会った顔だというのに、十年の知己を思わせた。